

京都府立大学文学部歴史学科
フィールド調査集報



第9号

2023年3月

刊行にあたって

京都府立大学文学部歴史学科では、京都府下を中心にさまざまな地域をフィールドとして、歴史と文化遺産に対する調査研究を実施してきた。京都府域における調査研究の核となるのが本学の地域貢献型特別研究（ACTR）で、2022年度は、綾部市・宮津市・京丹後市での調査を、そして京都府北部におけるMALUI連携による地域づくりについての検討を進めた。また、京田辺市史および和束町史の編纂に係る調査事業についても引き続き取り組んでいる。これ以外にも教員・大学院生・学生によって京都府内外で調査が進められている。こうしたフィールド調査成果の概要を、歴史学科では『フィールド調査集報』として刊行しており、本書はその第9号にあたる。

歴史学科では、文献史学・考古学・地理学・文化情報学・建築史学といった分野から、フィールドに残る文書・建造物・石造物・遺跡・景観といった多様な文化遺産に焦点を当てた調査をおこなっている。さらに、博物館等での展示協力や、地域住民に対する報告会など、研究成果の活用・社会的還元についても、重視した活動を展開している。ともすれば、こうした調査は内部の報告書で終わることが多く、また個別の教員の元でのみ成果が保管されがちであるが、歴史学科では年間の活動成果をまとめることで、調査活動およびその活用事例の公開・提示をおこない、研究・教育の成果の還元に努めている。

本書を通じて、歴史学科の活動と地域貢献の一端をご理解いただくことができれば幸いです。

例 言

1. 本書は、2022年度に京都府立大学文学部歴史学科の教員と学生がおこなったフィールド調査、およびそれに関連する研究、調査研究成果の活用についての概要報告集である。
2. 第Ⅰ部には、京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）をはじめ、京都府下において歴史学科教員が中心となって実施したフィールド調査の概要を収録した。なお、複数年度にまたがる研究課題については、2022年度以前の調査成果とあわせて収録している場合がある。
3. 第Ⅱ部は、京都府外の地域を対象に、科学研究費補助金の研究課題や受託研究、実習授業などの一環として、歴史学科の教員と学生が中心となって実施したフィールド調査の概要を収録した。
4. 第Ⅲ部には、京都府立大学文学部歴史学科が中心となって進めている京田辺市史、和束町史の編纂事業に関わる調査の速報を収録した。京田辺市とは2017年度より京田辺市史編纂に関わる「連携協力に関する覚書」を締結しており、2022年度より「連携協力に関する協定」を締結することになった。協定を結んだことで始まった京田辺市内の小学校との連携事業についても第Ⅲ部に取り上げている。また、和束町とは2017年度より「連携協力包括協定」を締結している。
5. 第Ⅳ部には、歴史学科の学生による課内・課外での取組み内容の報告を収録した。なお、本年度の「文化遺産学フィールド実習」（歴史学科2回生向け実習科目）では兵庫県多可町に赴いた。本書ではその調査成果の一部を示す。岩座神地区に関する調査については、別途、改めて報告書にまとめる予定であるため、掲載していない。
6. 本号の編集は上杉和央が担当した。編集にあたっては、宮田匡・守田悠（文学研究科史学専攻博士前期課程1回生）が編集実務を分担した。